ゆうかり放送委員会提供

ゆうかりに乾杯

第52回放送の概要（2012年7月28日放送）

パーソナリティ
さくら（安本久美子）
タロウ（佃　由晃）
なかちゃん（中嶋邦弘）

コアラさんの地域瓦版
アコちゃん（三木文子）

ミキサー
門ちゃん（門田成延）
一ノ瀬悟

相談役
わだかん（和田幹司）

会計
小山俊則

（ＣＭ）エキストラ珈琲は、神戸で初めてのコーヒー豆焙煎問屋として、大正 12 年に誕生。その伝統ある個性的な存在は、高級コーヒーを厳選し、評価に値する味を提供する店として、広く皆様に愛されています。大河ドラマ「平清盛」にちなみ、清盛コーヒーを販売中で、「清盛茶屋」の運営にも携わっています。本日はエキストラ珈琲様（電話 078-671-0135）のご協力を頂きました。

（ＣＭ）「７つ　８つ　９つ　とう　といち」でおなじみの「十一の奈良漬」は、「灘の生一本」の酒粕に漬け込み仕上げた自慢の味です。食事の締めくくりに、サンドウィッチや巻寿司などにも御愛用ください。今日は、「十一の奈良漬」黒田食品さまの御協力を頂きました。

（ＣＭ）石川遼です。今僕たち若者の献血が減っています。僕たちが支えることで生きていける命があります。Love in Action、日本赤十字社。献血年齢の拡大や英国滞在歴の制限緩和など、採決基準が一部改正されています。詳しくはＷＥＢへ。

１．オープニング

今日はこの夏一番の暑さです。最近は昔と違って 30 度を超える日が続くのが普通になってきています。さくらさんは先日大雪山を縦走してきたが 20 度以下でした。あこちゃんの暑さ対策はヨガの指導などで汗を良くかくが、汗はかかないといけない。汗をかいていても余分な水分が溜まることがあるので上から下、下から上へ流してやる体操をすればよい。ペパーミントの入ったアロマオイルをシュシュッとして拭くと気持ちがよい。小さな保冷剤を入れたハンカチで拭くのも良い。

２．ゲストコーナ（１）：近畿タクシー社長　森崎清登さん

今日のゲストは、昭和 27 年生まれ、長田高校卒、早稲田大学法学部を卒業された近畿タクシー社長の森崎清登さんです。子供の頃は国鉄鷹取工場の東端に正門があり、夏休みはそこでラジオ体操をしていた。そのあたりは須磨区で、今住んでいるのは長田区なので須磨っ子であり長田っ子である。長田高校から見た兵庫高校の印象は、学生の頃は所在地すら知らなかったが、「ひょうご」の音の調べがいいと思っていた。タクシー会社で仕事をするようになって地図ですぐ近くであることに気付いた。兵庫高校は同窓会である武陽会の呼び名があるが、長田高校は神撫会という呼び方をしている。高取山を神撫山と呼ぶところから来ている。

阪神大震災の時は長田区上池田に住んでいたが、大きな被害はなかった。会社の方はガレージの１階が大きく沈み込み大きな被害となった。社員を含め人的被害はなかった。生まれは千歳町でＦＭわぃわぃのある鷹取商店街はお使いに来ていたところで、小学校同級生が多く住んでいたので自分たちの遊び場であった。しかし震災で全焼し来たくなったが、海外に出張していた友人から、両親を見に行ってくれと依頼され、来てみると昔の風景が全くなくなっていた。子供の頃の記憶がストンと無くなってしまい、むなしさを感じた。しかしその時時間をかけずに、いやいやもう一度作ればよい、町づくりをしなければいけないと思った。その想いは 17 年経った今も持ち続けている。その後商店街の皆さんに場を与えてもらい、頑張らないといけないと思った。

高校時代は運動部に入らず図書委員会のコンサート部に入り、古い図書館で昼休みに名曲をゆったりした気分で親しんでもらうために、レコード針を飛ばさないように静かに置いたり、曲の説明をしたりしていた。また生徒会活動では風紀委員長をしていた。当時はすでに長髪で、帽子を被るのが億劫になるので制帽廃止運動がおこった。風紀委員長としては、すぐに自由に走るのではなく、折衷案として整髪をして帽子を被るべきと提案した。クラスの生徒からは森崎は学校側などと言われたこともある。なんでも自由にすると言うことに対しては竿をさす立場をとっていた。しかし結果的には何でも自由になってしまった。大きな流れに竿をさそうとしたがすぐに流されてしまった。

３．ミュージックコーナ：　Love never dies (KOBerries)

神戸版の地域活性化アイドル。ベリーのようにかわいく、神戸を代表するフレッシュアイドルとして活躍してくださいということで、各区から、14～19 歳の女の子が集まり頑張ってくれています。（神戸発の地域活性化アイドルユニット）

5 月頃より活動していますが、今月 14～16 日のポップカルチャーフェスティバルで正式レビューしました。毎日ダンスや歌を練習しています。

４．ゲストコーナ（２）

震災 5 年後に震災後の町づくりやりたいということを商店街に持って行った。はじめは商店街の会合にオブザーバーとして参加した。円形テーブル席の一つに座るように言われ、仲間として扱ってもらえた。Ｍ氏からしゃべりたそうにしているからしゃべったらどうかと言われた。商店街の皆さんは疲れており、元気を出し続けるためにしゃべっているような印象を受けた。長田を観光の町にしたいという話をした。皆さん疲れているので、「どういうことやねん」と弱い反応があった。商店街の人に、「観光は光を観ると言います、あなたの眼の中の光を見に来るのです。」「光っているか。」「光っています、その光を皆に見てもらうのです」「そんなん誰が見に来るの、物見遊山じゃないのか。」「物見だけど皆さんの眼を見に来るのです」「誰が来るの」「孫のような若い生徒が修学旅行で来ます、忘れたいことばかりかもしれないが伝えて行く必要があることもあります。」　一番反対すると思っていたＩ氏が「あんたの言う通りや、若い世代に伝えて行くことは我々の役目だ、そういう役割が我々にあったんや」こうしてＭ氏、Ｉ氏が賛同したので提案が受け入れられ、長田の観光宣言をその場で行った。

「森崎さんは商店街から、得することはあるのか、裏があるやろ」と聞かれたので、「はいあります、長田の町が観光の町になった暁には、観光タクシーは近畿タクシーに牛耳らせてほしい」と言ったところ「よっしゃ」ということになった。長田の商店街では近畿タクシーが独占的に観光タクシーをやることにＯＫになった。Ｉ氏から「長田の観光、どこでタクシーに乗ることがあるのか」と言われ、「そのことには気づいていませんでした」と答えた。得を獲りにいってもその得は幻に消えていく。しかし企業の販売促進の営業として得を獲るため町づくりにかかわってきた。皆さんからは儲けにもならないこ

とを一生懸命やっていると思われた。

初期のアイデアタクシーは商店街の皆さんのアイデアで生まれたものが多い。お花見タクシーの陣幕は呉服屋の若旦那が作り、桜の提灯は商店街の飾り付けのものを分けてもらったりして 12 年続いている。

海のタクシーは、商店街の人から、「海パンをはいたまま海に行くタクシーやりーよー」と言われて始めたもの。玄関を開けるとタクシーが待っている。水着のままタクシーに乗り、海水浴に満足したら濡れたま乗って帰ってもらえる。家の前がマイビーチというコンセプトで運転手はアロハシャツを着、子供さんは浮き輪をしたまま乗ってもらえる。このように皆さんのアイデアをすくい取る技術は揉まれてよくなってきた。

アイデアを実現するために人と人、店と店をつないでいく必要があり色々研究している。お店を見に行き、少しでもお店の特になるよう考えているとその店の社長さんの考えが伝わってくる。それが「のりしろ」であり、別の店の「のりしろ」を繋げて行くことにより、それぞれの店の小さな得が実現していく。小さいことなのであまり考えなくても実現できる、気持ちが良くなると言う感覚である。その実現できた全体を見て〇〇タクシーが出来あがる。そのままでもよいものを繋げて行くことにより、小さな価値を生み出す。皆が納得できるので負担感がない。周りや従業員の家族が良くやったと言って誉める。コストがかからないことをやることにより、眼に見えないところで褒め合うことになり、小さな得で皆が気持ちが良くなることにつながるのである。

長田ユニバーサルデザイン（ＵＤ）研究会会長でもある森崎さんの考える、ＵＤとタクシーと町づくりの関連については、12 年前にＵＤに出会い、エコもその当時に始まった。神戸は被災後多くの優しさを頂いた。「優しさ」が震災後のキーワードになると考え、優しいタクシー会社とはどのようなことかと考えた。「環境に優しい」という言葉につながり、これはエコであり、「人に優しい」はバリヤーフリーから「ユニバーサルデザイン」に繋がった。「エコ」と「ＵＤ」を基に今後のタクシー会社を作ろうと考えた。町づくりに関係する前にすでにそれぞれのタクシーを 1 台ずつ作っていた。長田区役所にお願いし研究会を作ってもらったが、「ＵＤ」という言葉は一般になじみがないので説明が必要である。ユニバーサルは「普遍的」から「普遍的な事」「普遍的な物」というように突き詰めて行くと「幸せ」になり、デザインは「作ること」から「みんなの幸せ作り」が神戸の復興活動に共通することと考えた。この考え方は、町づくりにも、お客さんの幸せを考えるという近畿タクシーの活動にも繋がる。

何にでも当てはめることが出来る言葉であるから長続きしてきたと思う。このような考え、取り組みは東日本にも使ってもらいたいと考えている。近畿タクシーにとって「ＵＤ」はお客さんの幸せであり、業界標語の「いつでもどこでもどなたでも」は「ＵＤ」そのものである。タクシーとしてどのようなサービスが良いかを考えた時、「移動制約という課題を解決するのがタクシーの使命」と考えることにし

た。ＵＤとめぐり合い、思いついた言葉である。高齢者に対するサービスだけでなく、小さな子供たちの移動についてはお母さんの移動困難の解決のためのサービスづくりを考えてきた。

５．なかちゃんの「こぼれた話、こぼれなかった話」：下町振興に外国人観光客を呼び込もう

地域が元気になることの一つに、賑わいがあります。人々が集まってきて、賑わって、商売もうまく行きます。平たく言えば、観光客、旅行客が増えて、地域が賑わってくれることです。

日本国内で旅行消費額（2010 年）は約２４兆円、名目ＧＤＰの５．２％、雇用誘発効果は４２４万人（６．６％）にのぼります。２４兆円のうち、日本人が消費するのは９４．３％、外国人はたったの１．３兆円の５．７％しかありません。

経済を考える上で、日本の経済の「升」と言うか総スケールを増やすのは、日本の外から注入されるものが大きければ大きいほど良いのです。いわゆるインバウンドと言っています。旅行消費額の経済効果は莫大なんです。それだけに、世界各国の経済振興の切り札、第一の狙いは観光政策であり、このインバウンドです。

この観光がその国のＧＤＰに占める割合の高い国、言い換えると観光が経済を支えている国は、①スペイン、②オーストリア、③ニュージーランド、④フランス、⑤オーストラリア、⑥イギリス、⑦ノルウェー、⑧ドイツ、⑨スウェーデン、⑩アメリカ・・・・はるかに下がって日本です。

この外国からの旅行者受入状況を見ますと、日本は出かけて行くのが１５４４万人（2009）、世界で１０位、アジアで２位ですが、入ってくる外国人は８６１万人（2010）、世界で３０位、アジアで８位。2011 年はもっと下がって６２２万人です。順位はもっと悪くなっています。

ちなみに、２００８年は８３５万人でしたので、このまま順調に行くと２０１０年には目標の１０００万人に到達できる見込みでした。しかし、２００９年はあの新型インフルエンザの影響で６７９万人、2010 年は８６１万人に戻り、さあこれからと言う時に、東日本大震災と原発事故で 2011 年は６２２万人にまた落込みました。結局、これらの災難による風評被害が、挽回を狙った誘致策を帳消しにして、５年分ぐらい後戻りしてしまいました。

日本に来られた外国人は、アジア４４６万人（７２％）、北米６７万人（１１％）、欧州３５万人（７％）、ほか、無記入も入れて５８万人（９％）。もちろん、近隣の①韓国１６６万人、②中国１０４万人、③台湾９９万人、④アメリカ５７万人、⑤香港３６万人です。

また、この日本の来られた外国人観光客がどこに泊っているかと言いますと、当然ながら①東京都、②大阪府、③千葉県、④北海道、⑤京都府、ずっと下がって兵庫県は⑫位です。

日本政府も勿論、手をこまねいている訳ではなく、２００６年（Ｈ１８）に観光立国推進基本法を制定しました。基本法を決めるということは、国家の進む道を根幹的に宣言し、あらゆる支援を盛り込む関連法も多くついてくる、ということです。大型キャンペーンも次々と打ち出しています。最近では、「ビジット・ジャン・キャンペーン」に、統合中央政府として「観光庁」の設置、国家戦略プロジェクトの打ち出し、オールジャパンによる訪日プロモーション、日本から世界へ「感謝」を伝える Japan Thank You　キャンペーン、東北観光博で被災地への観光客呼び込みなど、やっています。

歴史と産業や文化、見るべきものが沢山ある（外国人の評価も）のに、なぜ日本にやって来ないのでしょうか。色々原因はあります。外国語表記の問題と、円高など日本の旅行コストが高いことです。特に宿泊代。わざわざ遙か離れた国にやってきておりながら、長居ができないのです。

その解決策として、地域の私たちでも取り組めることがあります。それは、外国人向けのいわゆる木賃宿です。下町など日本の風情ある街並みの中で、日本の文化、庶民の生活に直に触れることが出来る木賃宿。１泊３０００円～４０００円程度の料金設定であれば、長期連泊が可能となります。各方面観光小旅行のベースキャンプにもなるのです。この低料金で、和風の部屋、布団で寝る、日本の食、共同浴場、地域の人との交流、日本の安全安心は、日本に旅行する外国人観光客が求めているものです。東京の築地の魚市場、夜の屋台飲み屋などが人気です。

長田、兵庫、須磨の下町で、遊休施設（空きの目立つアパートや社員寮など）を改造し、地域の定住

外国人たちの雇用参加も図って、庶民的な運営ができれば、地域の魅力が観光資源として全世界から注目され、地域が賑わうことになるのです。

番組に対するご意見、ご感想はこちらまで：yuukarinikanpai@gmail.com